

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和2年2月14日

事業所名 ROSELLE 3RD KIDS CLUB

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>		適性であるように設定すると共に、その子に応じた対応が出来る様に別室なども臨機応変に使用しています。	
	2	職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>		月初めや当日に配置数が適切であるかの確認を行うようにしています。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	<input type="radio"/>			一部改良が必要な箇所があるため今後改善をしていきます。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>		目標や取り組んだ事に関して、話し合い改善やサービス向上に繋がっています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>		アンケート結果だけではなく、保護者からの要望があった場合は、業務に反映させるように努めています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>		ホームページにて公開しています。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		<input type="radio"/>	社内実地指導を定期的に行い業務改善に努めています。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		定期的に必要な研修を実施するようにしています。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>		子供たちが安全に安心して利用する事ができるようなアセスメントを実施し、それに基づき計画書を作成しています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>		子供の特性を詳細に理解できるツールを使用しています。	成長に応じ、特記事項等を加えていき最新のものにしていくようにしていきます。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	<input type="radio"/>		定期的に話し合い、子供達の状態に合わせた活動を提供しています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	<input type="radio"/>		その日の、利用者の方に合わせたプログラムを実施するようにしています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	<input type="radio"/>			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>		子供たちの状況、特性に応じたものになるように計画書を作成しています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	<input type="radio"/>		毎日ミーティングを行い、その日の目標や注意点を話し合うようにしています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	<input type="radio"/>		送迎や休みで、その日に共有できない場合でも、後日伝達するようにしています。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	<input type="radio"/>		毎日、子供たちの様子や状態を記録にとるようにし、支援に反映できるようにしています。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	<input type="radio"/>		計画書の見直しの時期に、モニタリングを行うようにし、計画書に反映できるようにしています。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	<input type="radio"/>			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		その子供についてよく理解している者が参加し、今後のサービスに繋げていく事ができるようにしています。	特定の職員だけでなく、職員全員が子供たちの状況を把握し支援できるように努めています。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	—	—	医療的ケアが必要なお子さんは現在利用されていません。	今後医療的ケアが必要な子供が利用される場合は関係機関と連携して適切なサービスを提供していきます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携出来るように、計画していきます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		音楽祭などを通して、地域と交流する機会を設けています。	現在、保育所や認定こども園、幼稚園との交流する機会がないため、今後検討するようにしていきます。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している		○		（地域自立支援）協議会へ参加できていない為、今後参加するように検討していきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時や電話時等に、事業所での様子や必要事項をお伝えするようにしています。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	ご相談があった場合は必要な情報提供やアドバイスができるように努めています。	ご相談に応じることは実施しているが、家族支援プログラムの支援は現在行っていない為、今後実施できるように検討します。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		サービス開始時に説明するようにしています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		ご相談があった場合は、出来る限り早く対応できるように努めています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		現在、父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催するということを行っていない為、今後計画するようにします。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○		現在、きちんとした会報など発行する事ができていない為、今後発行できるように検討します。
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報に関する書類は、鍵付きの書庫に保管しています。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		その子に合わせた対応出来るようにスタッフ間で話し合い、協力するようにしています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		年に2回、大きなイベントを行いポスターなどを通して参加を呼びかけています。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		職員には周知徹底するようにし、保護者の方にもマニュアルに沿って対応しています。	保護者の方にもマニュアルに関してわかりやすく説明し、周知できるようにします。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年に2回実施しています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットがあった時、スタッフ間で話し合い再発防止に努めています。	